

各事業のロードマップ振り返り(19 期)

- ・ 総会資料、理事会資料、執行部との打ち合わせ、各委員会・事業の課題をもとに、19 期の事業実施計画と実施目標、到達目標の達成度と経過評価(遂行困難な状況の課題)をあげ、20 期事業計画に反映させる。
- ・ JSNA 基本的な活動方針は以下のとおりであり、19 期において全ての委員会および事業の根幹として活動した。20 期においても、下記の活動方針のもと、事業計画を遂行する。
長期目標:国内における応用的・実践的なスポーツ栄養学の基盤づくりと発展
中期目標(19 期～20 期):「スポーツ栄養学における応用研究の発信」「スポーツ現場における実践活動報告の推進」「スポーツ現場に還元できるデータの蓄積」「人材育成」「持続可能な学会の運営体制」

委員会	中期目標 (19-20 期)	中期目標(19～20 期)を達成するための 19 期到達目標・実施計画		19 期到達目標に関する評価	
研究誌編集	研究と実践活動の両方の報告を含む独自性のある学会誌としてのプレゼンス向上	到達目標	・総掲載数 10～20 本を目標とし、第 19 号を発刊する。 ・研究・教育支援事業運営委員会と協力し、サプリメント号を発刊する。	達成度	・掲載本数 15 本(原著・短報 6 本、事例報告 3 本)を達成した。 ・研究・教育支援事業運営委員会と協力し、サプリメント号の発刊を行なった。
		実施計画	・学会大会等での発表者に対し、論文(ショートレポートを含む)の執筆を促し、必要な支援を行う。 ・研究・教育支援事業運営委員会と研究誌(サプリメント号を含む)の編集作業にかかわる委員の増員、情報共有および査読者養成の検討などを行う。	経過評価	・第 11 回大会発表者に対して声かけを行い、論文投稿を促した。また、論文執筆を促進する支援策の 1 つとして、掲載料等補助制度を整備し、運用を開始した。 ・研究誌の編集委員を増員した。 ・研究・教育支援事業運営委員会と協力し、査読の手引きの作成、査読や育成の手順の整備を行った。査読者育成については、育成対象者の選定と事業への参加までは順調に進んでいるが、対象となる論文の投稿を待つ必要があるので、事業の進捗には時間がかかる可能性がある。
研究・教育支援事業運営	・実践活動報告の発信に向けた各種講習会による支援体制づくり ・スポーツ現場に還元できるエビデンス構築のための体制づくり	到達目標	・研究誌編集委員会と協力し、2026 年 8 月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた研究誌サプリメント号(ショートレポートを 10 本程度)を発刊する。 ・スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供(更新研修・セミナー各 1 回を行う)。 ・研究評価支援部会では、研究誌編集委員会と協力して査読者養成を行う。	達成度	・研究誌サプリメント 19 号の実践活動報告/症例報告ショートレポート掲載数は 6 本であり、目標を下回った。 ・対面にて 2025 年 8 月にスポーツ栄養学研究セミナー(延 132 名)、オンデマンドにて 2025 年 11 月に公認スポーツ栄養士更新研修(延 1426 名)を実施した。 ・研究誌編集委員会と協力し、査読の手引きの作成し、査読や査読者育成の手順の整備を行った。
		実施計画	・2026 年 2 月と 2026 年 8 月に希望する会員を対象にオンラインまたは対面で、ショートレポート執筆支援企画(マッチング企画、執筆相談会)を実施する。 ・2025 年 8 月にスポーツ栄養学研究セミナーを対面にて開催する。また、2025 年 11 月に公認スポーツ栄養士更新研修をオンデマンドにて開催する。講演内容については、公認スポーツ栄養士および学会員に向けた実践活動報告の推進を主軸とする。一方で、参加者の学びと実務への応用を促進するため、訴求力の高い講習会運営を行い、参加者の専門性向上を目指す。 ・査読の手引きを作成する。手引きを基に対象者(博士号取得から数年程度)が査読を実施できる環境整備を行う。	経過評価	・実践活動報告/症例報告ショートレポートの掲載数が減少傾向にあり、執筆支援の在り方を再検討している。 ・セミナーおよび公認スポーツ栄養士更新研修の受講者アンケートでは、実際の栄養士による実践活動報告の事例を求める声が多かった。そのため、実践活動報告の事例を交えた執筆支援ワークショップの開催を検討している。 ・査読の手引きについては、計画通り作成することができた。査読者育成については、育成対象者の選定、事業への参加までは順調に進んでいる。ただし、指導対象となる論文の投稿を待つ必要があるので、事業の進捗には時間がかかる可能性がある。

渉外	・他団体との連携をよりスムーズに行う。 ・可能であれば、新規団体との連携を模索する。 ・臨スポとの合同シンポジウムのあり方を引き続き整理していく。	到達目標	・他学会との意見交換や共同企画を通じて、より効果的な連携方法を確立する。 ・東京栄養サミット 2021 コミットメント関連の活動において、関係団体との連携を円滑かつ誠実に進める体制を維持・発展させる。	達成度	・第 19 期では、日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムだけでなく、女性アスリート委員会主催の講習会への協力、第 14 回日本アスレティックトレーニング学会学術大会および第 79 回日本体力医学会大会での合同シンポジウムでの企画に関与した。 ・東京栄養サミット 2021 コミットメント関連では、日本栄養学学術連合の活動として、第 11 回学会大会での発表内容を中心とした報告を行った。日本スポーツ体育健康科学学術連合、健康日本 21 連絡協議会についても、執行部と確認しながら連携を進めている。
		実施計画	・学会大会での成果を整理し、東京栄養サミット 2021 コミットメントの進捗や課題に反映させていく。 ・他学会の活動や情報を収集し、会員への共有方法とその効果について検討する。	経過評価	・東京栄養サミットコミットメント対応では、今後開催される第 12 回学会大会の成果のまとめを行う。 ・第 20 期の事業計画である、日本臨床スポーツ医学会との合同シンポジウムのほか、日本野球学会第 4 回大会での企画協力にむけ準備をしている。今後も、他学会からシンポジウムや大会企画への協力要請があると考えられるため、渉外委員会では対応する際のルールを引き続き整備していく。その他、他団体および学会との連携を行う。
国際交流	国際交流推進の意義を理解できる会員を増やす。	到達目標	・国際交流活動に関心を持ち参加・協力してもらえる JSNA 会員を増やす。 ・PINES とは相互的かつ定期的な情報発信を継続する。 ・KSEN とは学術交流活動の活性化に向けた取り組みに向けた意見交換を実施する。 ・国外のスポーツ栄養に関わる研究者やスポーツ栄養士との交流を模索・促進する。	達成度	・国際交流委員会で企画・実施したオンラインセッションでのご講演や、PINES に提供する記事を提供していただくなど、複数の JSNA 会員からご協力をいただいた。 ・PINES からの E-News を抜粋翻訳するとともに、JSNA の学会報告や JSNA 会員の活動を記事として提供した。また、PINES の理事にオンラインセッションでご講演いただいた。 ・KSEN が発行している学術誌に掲載された論文情報を定期的に JSNA のメールニュースで発信した。
		実施計画	・第 18 期の活動報告を JSNA の HP に掲載する。 ・PINES から届く全ての E-News の抜粋情報と、PINES が発信している記事を年間 2－3 編翻訳して学会員に発信する。 ・PINES に対して JSNA から 1 編以上の記事(学会報告や Feature article、Fact sheet など)を提供する。 ・KSEN の学会情報を JSNA 会員に提供する。 ・KSEN が発行している国際誌 Physical Activity and Nutrition に掲載された論文情報を JSNA 会員に提供する。 ・第 19 期中に国際交流イベントを実施する。 ・2026 年(会計年度第 20 期)に開催される第 12 回大会での国際交流セッションの開催に向けた準備を進める。	経過評価	・第 18 期の活動報告を JSNA の HP に掲載した。 ・PINES から届いた E-News を 12 回抜粋翻訳し、Feature Article を 2 報翻訳して JSNA 会員に発信した。 ・PINES に対して、1 報の記事を提供した。 ・KSEN の春季学術大会の開催情報を JSNA のメールニュースで配信した。 ・KSEN が発行している国際誌 Physical Activity and Nutrition(PAN)に掲載された論文情報を 4 回 JSNA のメールニュースで発信した。 ・第 19 期中の 2026 年 2 月 28 日にオンラインセッションを開催した。 ・第 12 回大会に学会企画として国際交流セッションを開催することが決定しており、KSEN の先生方 2 名による講演を準備している。
認定事業運営	スポーツ現場において PDCA サイクルに則った実践活動ができる公認スポーツ栄養士を養成する。	到達目標	・公認スポーツ栄養士の検定試験合格率向上と合格に向けたフォローアップを継続する。 ・ベーシック講習会を滞りなく開催する。 ・講習会運営に関するマニュアルを整備する。 ・養成講習会テキスト改訂作業を終了し、2026 年度受講生から新しいテキストの利用を開始する。	達成度	・公認スポーツ栄養士の検定試験合格に向けたフォローアップの検定準備講座 3 回およびサテライト講習会 2 回を開催し、目標としていたフォローアップ継続に対して例年の実施率を達成できた。一方、合格率は改善されなかった。 ・ベーシック講習会を滞りなく開催した。 ・ベーシック講習会運営に関するマニュアル整備の進捗は 20%と遅れているため、こまめな進捗確認を行い、完成を目指す。

					・養成講習会テキストは改訂作業が終了し、2026 年度受講生から利用できる予定である。
		実施計画	・公認スポーツ栄養士養成講習に関しては、新規受講者説明会、受講者交流会、検定未受験者に検定準備講座参加機会、サテライト講習、再試験を実施する。 ・検定試験に関する規程の作成をする。 ・ベーシック講習会を 2025 年 12 月にオンラインで開催する（3 日間、受講者定員 180 名）。2024 年度の一部講義未受講者が再受講を希望した場合、テキスト代のみで当該講義の受講を可能とする。	経過評価	・公認スポーツ栄養士養成講習に関し、新規受講者説明会は 2025 年 7 月に開催し参加者は 77 名であった。 ・2025 年 7 月、学会大会内で専門講習会受講者交流会を開催し、33 名の参加があった。 ・2025 年 9 月、2026 年 4 月にサテライト講習会を開催し、13 名、39 名の参加があった。 ・2025 年 8 月と 2026 年 1 月に再検定試験を実施した。 ・2025 年 10 月に検定未受験者に検定準備講座再受講の機会を設けた。 ・検定試験規程は作成中であり、進捗は 50% である。 ・ベーシック講習会を 2025 年 12 月にオンラインで開催し、184 名（内 4 名は昨年度一部講義未受講生）が受講した。講義後の質問受付フォーム、受講者アンケート、実施状況から今後の開催方法、受講料を検討する。 ・ベーシック講習会運営に関するマニュアル整備の具体的なスケジュールおよび進め方について検討した。 ・合格率の改善においては、これまでと異なる方向性の対策（検定未受験者及び未修了者への対策等）が必要である。
ホームページ・広報	ホームページを通じた学会活動の情報発信と見える化の充実	到達目標	・公認スポーツ栄養士の活動実態に関するアンケート結果を、日本スポーツ栄養研究誌ならびに学会大会、HP で公開する。 ・HP、メールニュースにて継続的に学会の情報発信を行う。	達成度	・公認スポーツ栄養士の活動実態に関するアンケート結果を HP で発信することができた。また、第 12 回学会大会においては学会企画としてパネルディスカッションを開催する予定で調整を行うことができた。さらに、論文としてアクセプトされ、早期公開の手続きに進むことができた。 ・HP、メールニュースにて、継続的に学会の情報発信を行うことができた。
		実施計画	・2026 年 1 月までに公認スポーツ栄養士の活動実態に関するアンケート結果を論文として取りまとめ、日本スポーツ栄養研究誌に投稿する。 ・上記アンケートは、2026 年 8 月に開催予定の第 12 回学会大会までに早期公開し、その内容を学会大会にて会員に発信する。 ・第 12 回学会大会で発信した内容を基に、HP、ならびにメールニュースで発信する。 ・学会事務局ならびに執行部、委員会内部で連携し、賛助会員も含めて情報発信内容を集約し、発信フローに則り、通期を通して情報発信を行う。 ・2 ヶ月に 1 回の頻度で HP 全体を見直し、更新や改訂情報の確認を行う。	経過評価	・2026 年 1 月までに公認スポーツ栄養士の活動実態に関するアンケート結果を論文として取りまとめ、日本スポーツ栄養研究誌に投稿することができた。その結果、2026 年 4 月にアクセプトされ、早期公開の手続きに進むことができた。 ・上記アンケート結果を取りまとめた早期公開論文内容を基に、第 12 回学会大会にて学会企画としてパネルディスカッションを実施予定であり、会員への発信に向けて準備を進めることができた。 ・学会 HP およびメールニュース、SNS を通じて継続的に情報発信を行うことができた。 ・2 か月に 1 回の頻度をベースとして、更新が滞っている箇所を確認し、その頻度にとらわれず、確認され次第、改訂情報を速やかに HP で更新することができた。